

## 有力FX企業16社の月間データランキング-2017年10月-

### 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてFX(外国為替証拠金取引)店頭取引市場における有力企業16社<sup>\*1</sup>のアンケート調査を実施した。(有力FX企業月間ランキング-2017年1月より、調査対象企業が1社減少したため2016年12月に遡り、各データを再集計し、更新した)

1. 調査期間:2017年11月
2. 調査対象:FX業界大手、有力企業のうち社名又は数値の公表を前提として、協力を得られた16社を対象とした。  
一部の企業で、統計数値や社名について非公開のものもあるため、集計対象が16社にならないものもある。  
※社名及び数値を非公開とする企業は、集計の際、「その他」としてランキングから除外した。
3. 調査方法:当社専門研究員によるe-mailによるアンケート調査

### 【調査結果サマリー】

◆ 企業単体集計の2017年10月の預かり残高第1位はGMOクリック証券、第2位はDMM.com証券

◆ 企業グループを加味した集計では、第1位はSBIグループ<sup>\*2</sup>、第2位はGMOグループ<sup>\*2</sup>

2017年10月末の有力FX企業15社<sup>\*1</sup>の預かり残高の合計は、8,922億円であった。10月は本調査対象企業15社中11社で預かり残高が増加し、前月比117億円増(1.33%増)となった。

◆ 企業単体集計の2017年10月の口座数の第1位はDMM.com証券、第2位はGMOクリック証券

◆ 企業グループを加味した集計では、第1位はSBIグループ<sup>\*2</sup>、第2位はGMOグループ<sup>\*2</sup>

2017年10月末の有力FX企業16社<sup>\*1</sup>の口座数の合計は、449万口座であった。10月は前月比2.0万口座増(0.46%増)となり、本調査対象企業16社中15社(その他企業2社含む)で口座数が増加した。

◆ 2017年10月の取引高の第1位はGMOクリック証券、第2位はDMM.com証券

2017年10月の月間取引高は、有力FX企業12社<sup>\*1</sup>の合計で207兆円(百万通貨は1億円として換算)であった。10月は前月比49.9兆円減(19.43%減)となった。本調査対象企業12社すべてで取引高が減少した。

(\*1. 集計対象は、預かり残高15社、口座数16社、取引高12社、いずれも無回答を除く。)

(\*2. SBIグループはSBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレード3社の店頭取引の合算値。GMOグループはGMOクリック証券、FXプライム by GMOの店頭取引の合算値。)

★**ご注意:**本ランキングは、情報提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘し、特定企業を推奨するものではありません。

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

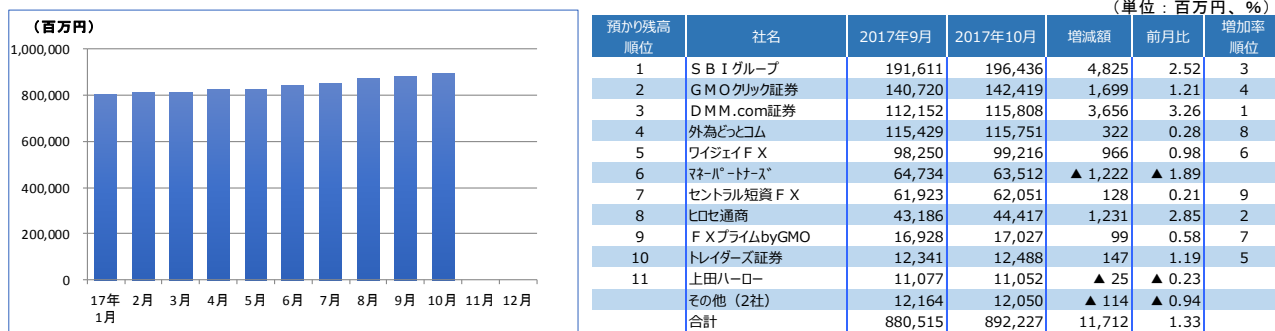
本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

## プレスリリース

## 【 預かり残高 】

- 企業単体における預かり残高ランキングの第1位はGMOクリック証券で1,424億円、第2位のDMM.com証券は1,158億円。企業グループを加味した集計では、第1位がSBIグループ(SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレードの合算値) (1,964億円)、第2位はGMOグループ(GMOクリック証券、FXプライム by GMOの合算値) (1,594億円)であった。企業グループを加味した場合、前月比で最も高い増加率はDMM.com証券(3.26%増)。次いでヒロセ通商(2.85%増)であった。

図表1. 預かり残高推移と10月月間ランキング



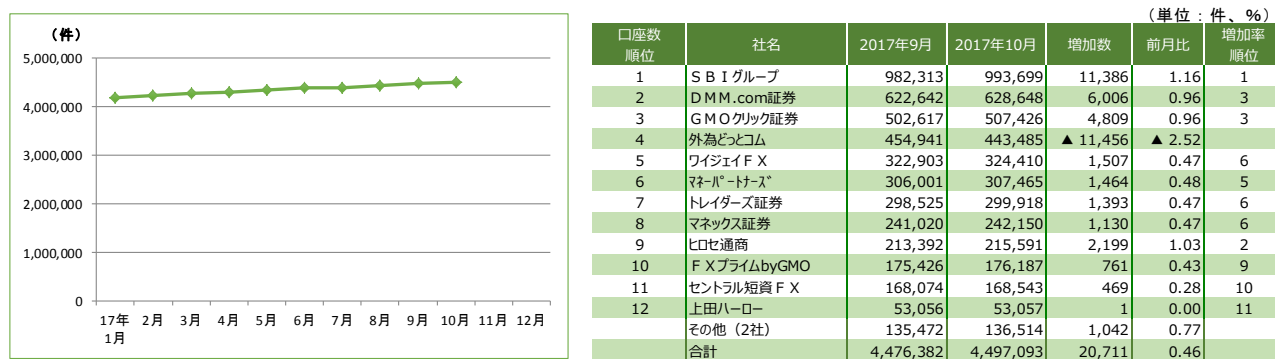
注1. 集計対象は無回答1社を除く15社の合計値。その他には2社含まれる。

矢野経済研究所調べ

## 【 口座数 】

- 企業単体における口座数ランキングの第1位はDMM.com証券で62.8万口座、第2位のGMOクリック証券は50.7万口座。企業グループを加味した集計では、第1位がSBIグループ(SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレードの合算値) (99.3万口座)で、第2位はGMOグループ(GMOクリック証券、FXプライム by GMOの合算値) (68.3万口座)であった。企業グループを加味した場合、前月比で最も高い増加率はSBIグループ(1.16%増)。次いでヒロセ通商(1.03%増)であった。なお、外為どっとコムの口座数が減少しているのは、長期間未稼働の口座を閉鎖したためである。

図表2. 口座数推移と10月月間ランキング



注2. 集計対象は16社の合計値。その他には2社含まれる。

矢野経済研究所調べ

注3. ヒロセ通商の口座数には、バイナリーオプションの口座数が含まれる。

## 【 取引高 】

- 月間取引高ランキングの第1位はGMOクリック証券で63.8兆円(百万通貨を1億円として換算)、第2位はDMM.com証券で55.7兆円(同)であった。

図表3. 月間取引高推移と10月月間ランキング



注4. 集計対象は無回答4社を除く12社の合計値。その他には4社含まれる。

矢野経済研究所調べ

注5. FXプライム by GMO はカバーをしている同業他社等、マネーパートナーズはCFD(差金決済取引)、ヒロセ通商はホリトラベルを含む。

注6. マネックス証券は、証券単体の店頭取引の公表数値に営業日数を乗じて弊社で算出し、単位を億円で表記。

注7. 百万通貨は1億円として換算。